

Higashiomi City Environmental Open Campus

2025.1.18

Table of Contents

01 Opening

05 Poster Session

25 Closing

森里川湖の地域資源を未来につなぐわたしたちの活動

東近江市

環境 オープンキャンパス

若者の想いがつまった活動が大集合！！

東近江市で活動する若者の取組を紹介します

- ★ 同世代で何か一緒にやってみたい
- ★ 面白い大学や高校を探している
- ★ 今の若い人の考えを知りたい
- ★ 自分の住むまちでできること、やりたいことを見つけないか

2025 年

1/18 土

13:00-16:00

(受付開始 12:30 から)

参加団体紹介



参加する団体を
こちらの二次元
コードで紹介し
ています。

会場

能登川コミュニティセンター

(東近江市鉢光寺町262)



高校生と一緒に
アイスづくり



地域のひと
あそびづくり



地域の聖山と
聖山保育



当日のスケジュール

- 13:00 - オープニング
- 13:20 - 1分間で活動紹介
どんな活動があるのか1分間で紹介
- 14:00 - 活動を見に行こう！
実際に活動をしている人に話を聞こう
- 15:30 - クロージング

参加費無料

申込みをお願いします！！

二次元コードからお申込みください。
(市内外及び年齢を問わず環境の取組
に興味のある方)



問合せ：東近江市環境部森と水政策課
東近江市八日市緑町10-5
電話：0748-24-5524

主催：東近江市環境円卓会議運営委員会、東近江市



Opening



主催者あいさつ

東近江市環境円卓会議運営委員会 委員長 山崎亨



皆さん、こんにちは。本日は、環境オープンキャンパスに参加していただき本当にありがとうございます。

自己紹介と活動の原点

私は中学生の頃から鳥類調査を始め、高校生の頃には鳥について深い知識を持つようになりました。『イヌワシ』という憧れの鳥に出会いたいという想いから、生息地に近い鳥取大学の獣医学科に進学し、大学在学中は土日のたびに山に入りイヌワシを追跡していました。こうした中で、地元である滋賀県の鈴鹿山脈にもイヌワシが生息しているのではないかと考え、調整したところ、県内で初めてイヌワシの生息を確認することに成功しました。この経験が、私が東近江市で活動するきっかけとなりました

東近江市の自然環境と地域資源の重要性

東近江市の面積の56%は森林です。この豊かな森林から流れる水は愛知川となり、里を潤し、琵琶湖へとつながります。東近江市は『森・里・川・湖』の全ての地域資源が揃う、全国的にも貴重な地域です。これらの素晴らしい自然資源を再生し、維持していくことは極めて重要です。

東近江市の環境基本計画では、自然環境が政策の基盤として位置づけられています。このように自然の価値を明記した計画を持つ自治体は全国でも珍しく、私たちの誇りであると言えます。

若い世代への期待と地域資源の活用

今回の環境オープンキャンパスには、特に若い世代や本市をフィールドとして様々な分野で活躍する方々に集まっていただきました。それぞれが地域資源の素晴らしさに気づき、それをどのように維持し活用していくかを考えることが、この地域を守るための第一歩です。

連携と意見交換の呼びかけ

自然は唯一無二のものであり、参加者の皆さんがそれぞれの活動を通じて連携を深めることが大切です。本日はこの場で自由に意見交換し、今後の活動を共に進めていただければ幸いです。

プログラムの概要説明

東近江市環境部森と水政策課 久保田雅士



私は本日の司会を務めます、東近江市森と水政策課の久保田です。どうぞよろしくお願いします。

環境円卓会議の概要

環境円卓会議は、市民参加型フォーラムとして平成28年度から2年に1回開催されています。これまで『森里川湖』をテーマに、計4回の会議を通じて、環境への取組に関する課題を共有し、今後の方向性を見出すことを目的に実施してきました。本年度の会議では、東近江市の豊かな地域資源を活用した若者や団体の取組を地域の皆様に広く知っていただくことを目的としています。

プログラム概要

■1分プレゼンテーション

最初に、発表団体の代表者に、1分間で自己紹介と活動内容を紹介していただきます。

■ポスターセッション

1分プレゼンテーションの後は、ポスターセッションを行います。以下の手順で進行します。自由訪問と交流各ブースにてポスターを使った発表が行われます。

参加者は自由にブースを訪問し、発表者や他の参加者と交流を図ってください。

意見・感想の共有交流後は、参加者が意見や感想を付せんに記入し、共有コーナーに貼り付けてください。

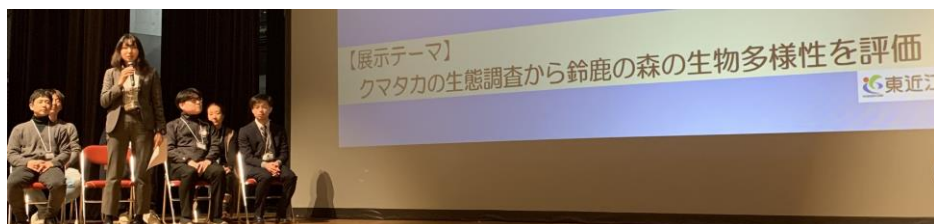
ポスターセッション終了後、一部の付せん内容を紹介します。匿名での記入も可能です。

終了時間ポスターセッションの終了は、15時30分を予定しています。

■クロージング

- ポスターセッション後はクロージングを行います。以下の内容で締めくくります。
- 付せんに書かれた意見や感想の一部紹介
- 発表者の活動報告と交流の振り返り
- 全体の振り返りと終了

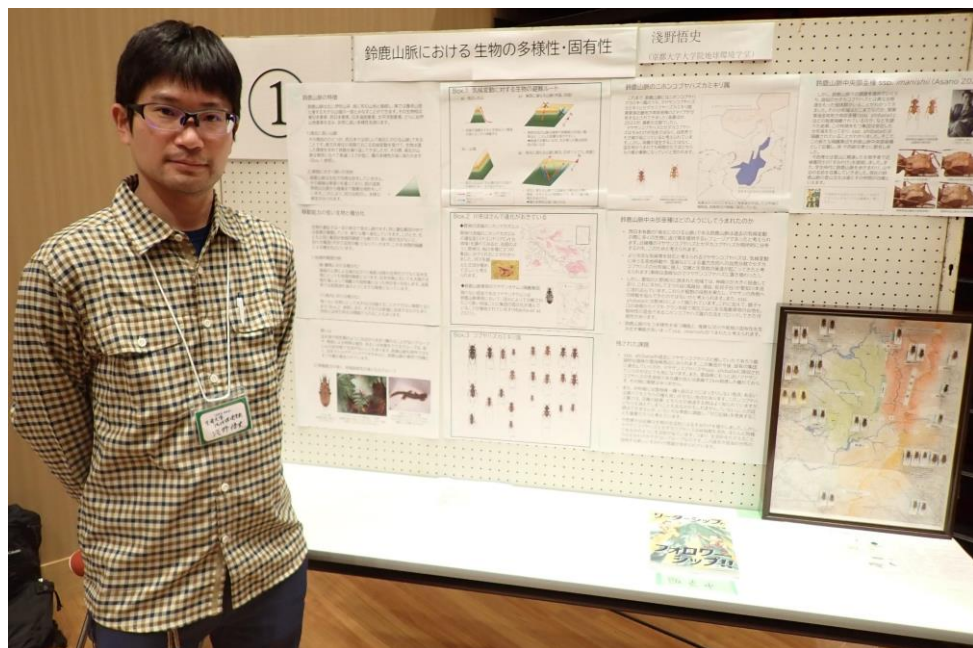
1分間プレゼンテーション ポスターセッション 参加17団体



No.	団体名	展示テーマ
1	京都大学大学院 地球環境学堂	鈴鹿山脈における生物の多様性・固有性
2	ココカラファーム	東近江市の農業の担い手について
3	菜園「野菜と旅する」	愛知川流域在来かぶら『信州カブ』をもう一度食卓へ
4	NPO法人愛のまちエコ倶楽部	菜の花エコプロジェクト
5	滋賀県琵琶湖環境科学研究 センター	愛知川中流域における河畔林が洪水リスクを利得に変えるメカニズム、 東近江市における生物多様性ポテンシャルマップ
6	東近江さとやまNannies 東近江市里山活用推進室	東近江市の里山保育
7	東近江市森と水政策課	森里川湖を基盤とした地域資源の活用
8	愛知川Eco-DRRプロジェクト 兵庫教育大学大学院 学校教育研究科	愛知川流域における伝統的治水施設「猿尾」の学際的調査を通じた可視化と教育的活用
9	近畿大学 森の文化資源調査員	愛知川支流御池川における在来イワナの生息の可能性
10	東近江市森の文化博物館 整備室	(仮称)東近江市森の文化博物館基本計画及びその取組について
11	東近江市観光物産課	東近江市近江匠人認証制度について
12	クマタカ生態研究グループ	クマタカの生態調査から鈴鹿の森の生物多様性を評価
13	H.Bコミュニケーションズ 合同会社 かなめカフェ	アイスクリームをメディアに！ 子どもが地域を自慢したくなる農産物の活用
14	株式会社みんなの奥永源寺	絶滅危惧種の東近江市の花「紫草(ムラサキ)」を用いた地域活性化
15	つどいの広場 えがお	地域のつながりから広がるもの
16	株式会社IHI	「小さな自然再生」の取組による自然と技術が調和する社会の創出
17	フードバンク東近江(Mitte)	東近江からはじまる新しいフードバンクのカタチ

Poster Session





01 京都大学大学院地球環境学堂

鈴鹿山脈における生物の多様性・固有性

京都大学大学院地球環境学堂の地域資源計画論分野に所属しています。『鈴鹿山脈における生物の多様性・固有性』についてお話しします。

生物多様性と固有性の重要性

生物多様性は、近年注目を集めており、行政では基本計画の策定や見直しが進められています。滋賀県でもその取組が進行中です。一方で、『固有性』も多様性と表裏一体の関係にある重要な概念です。

鈴鹿山脈における固有種の紹介

私が今回御紹介するのは、鈴鹿山脈における非常に固有性の高い生物です。具体的には、愛知川と野洲川の間に位置する、滋賀県側のごく狭いエリアに生息する“飛べないカミキリムシ”です。この種は世界でもこの数平方キロメートルのエリアにしか生息せず、独自の進化を遂げた貴重な存在です。

直接見て、触れることでその固有性と進化の魅力を感じていただければと思います。



02 ココカラファーム

東近江市の農業の担い手について

ココカラファームの杉本です。結婚して子どもが2人います。3年前に脱サラし、現在は米農家として活動しています。

農業への危機感と挑戦

現在、農業は担い手不足という深刻な課題に直面しています。全国の農業者の平均年齢は68歳という異常事態で、5年後や10年後を考えると、私たちが当たり前に見ている東近江市の田園風景がなくなってしまうのではないかと危機感があります。その危機感から農業に挑戦し、地域の田園風景を未来につなぐ活動を始めました。

どうすれば農業の担い手を増やすことができるのかについて意見交換したい

本日は、私が農家になってからの3年間で感じた『農家になって良かったところ』や『大変だったところ』を共有し、さらに、どうすれば農業の担い手を増やすことができるのかについて、皆さんと意見を交換したいと思います。



03 菜園「野菜と旅する」

愛知川流域在来かぶら『信州カブ』をもう一度食卓へ

愛東の有機農家、菜園『野菜と旅する』です。本日は、私たちが取り組んでいる『信州カブ復活プロジェクト』について御紹介します。

信州カブ復活プロジェクトの背景と歴史

私たちは2019年から、愛知川流域における在来カブである『信州カブ』の復活プロジェクトを進めています。『信州カブ』と聞くと、近江のカブなのに信州なのか？と思われるかもしれませんが、このカブは遺伝子解析により1200年前まで遡ることができる非常に古い品種です。歴史的には、木曾義仲が近江の地にもたらしたのではないとも言われています。

信州カブの価値と強み

この地域の気候や風土に長い時間をかけて適応してきた信州カブは、環境が悪化している状況下でも非常に強く、育てやすいという特長を持っています。信州カブは単なる農作物ではなく、この地域の宝物であると考えています。

信州カブの面白い歴史と価値を知ってほしい

本日は、この信州カブの面白い歴史と価値をここにいる皆さんに知っていただき、地域資源としての可能性を共有したいと思います。



04 NPO法人愛のまちエコ倶楽部

菜の花エコプロジェクト

愛のまちエコ倶楽部です。本日は、『菜の花エコプロジェクト』と、それに関連した地域内での資源循環や環境学習の取組について紹介します。

ブース案内

今回は、愛のまちエコ倶楽部から20代のスタッフ2人が参加しています。私たちのブースは4番です。『菜の花エコプロジェクト』について既に御存じの方も、初めて聞く方も、是非ブースにお越しください。

活動紹介とスタッフの思い

私たちは、なぜこの活動に参加し、愛のまちエコ倶楽部に入職したのか、そして現在どのような活動を行っているのかについてもお話しします。2人でタッグを組み、『菜の花エコプロジェクト』だけでなく、環境学習にも力を入れています。

発表の目的

今回は、『菜の花エコプロジェクト』の詳細な内容をお伝えするとともに、私たちが行っている環境学習の取組について、より多くの方に知っていただきたいと考えています。



05 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター

愛知川中流域における河畔林が洪水リスクを利得に変えるメカニズム 東近江市における生物多様性ポテンシャルマップ

滋賀県琵琶湖環境科学研究センターです。当センターの研究活動について紹介させていただきます。

琵琶湖環境科学研究センターの主な活動

琵琶湖環境科学研究センターで最も有名な取組の一つは、『琵琶湖の深呼吸』です。また、大気や水などの調査も行っており、琵琶湖の環境保全に貢献しています。

持続可能なまちづくりへの注目

実は、当センターでは環境調査だけでなく、東近江市を中心に持続可能なまちづくりに焦点を当てた社会的な研究活動も行っています。本日は、この分野の研究員である金さんと河瀬さんが参加していますので、是非お声掛けください。

個人的な研究の興味

私は生物に特に関心があり、琵琶湖に生息するビワマスやアユの産卵の調査が好きです。特に、アユの産卵に関連する調査では歴史的に興味深い発見もありました。

発表の目的と呼びかけ

琵琶湖環境科学研究センターでは、多岐にわたる研究を行っています。本日は、当センターの活動について知っていただき、気軽に質問や意見交換をしていただければと思います。



06 東近江さとやまNannies/東近江市里山活用推進室

東近江市の里山保育

東近江さとやまNanniesです。普段は、市内の幼稚園や保育所を対象に、5歳児向けの『里山保育』という出前講座を行っています。

活動の背景と課題

近年、外遊びを避けたり、自然に触れることを制限する家庭が増えている現状があります。たとえば、虫に刺される危険を避けるために外遊びを控えたり、服が汚れるから泥遊びをしないようにするなど、子どもたちの自然離れが進んでいます。こうした状況を何とかしたいという思いで活動を始めました。

活動のきっかけ

11年前から行政が行っていた『里山保育』を、民間で引き継いで実施することを提案しました。この提案が採用され、現在の活動につながっています。

参加の呼びかけ

子どもが好きな方、自然が好きな方には、是非指導者として活動に加わっていただきたいと思います。



07 東近江市森と水政策課

森里川湖を基盤とした地域資源の活用

東近江市森と水政策課です。今日は『森里川湖を基盤とした地域資源の活用』というテーマで展示しています。

エコツーリズムの推進

森と水政策課では、地域の自然、歴史、文化といった資源を活用し、地域のガイドが来訪者にその価値を伝える『エコツーリズム』を推進しています。この取組を通じて、環境保全と地域活性化を目指しています。

東近江市の地域資源

東近江市は、鈴鹿山脈から琵琶湖まで、豊かな『森・里・川・湖』の自然環境が広がるまちです。また、歴史や文化といった多くの地域資源も魅力の一つです。

展示内容

地域資源を活用して行われているエコツアーを中心に紹介しています。この展示を通じて、森と水政策課の取組や東近江市の魅力について、興味を持っていただければ幸いです。



08 愛知川Eco-DRRプロジェクト/兵庫教育大学大学院学校教育研究科 愛知川流域における伝統的治水施設「猿尾」の 学際的調査を通じた可視化と教育的活用

地理・地形の研究をしています。愛知川の地形と、それにまつわる歴史や災害対応についてお話しします。

愛知川の地形と水害の歴史

愛知川が氾濫した記憶はありますか？おそらく、氾濫を経験された方は少ないと思います。実は、ダムが建設されて以降、水害が大幅に減少しました。しかし、愛知川は扇状地であり、昔は氾濫を繰り返して土砂をためながら地形を形成してきました。

歴史的な水害対策の紹介

昔の人々は『猿尾』と呼ばれる石積みのでん防を造り、水害から身を守っていました。この堤防について御存じの方は少ないと思います。実際に森の中に隠れていることも多いこれらの遺構を、ドローンを活用して測量しています。

研究のコラボレーションと活用

私たちは歴史研究者や生態研究者など、多分野の研究者と協力し、愛知川に住んでいた人々がどのように災害と向き合ってきたのかを研究しています。そして、その成果を教育に役立てています。

昔の人々の知恵や愛知川の魅力を知るきっかけになればと思います。



09 近畿大学 森の文化資源調査員

愛知川支流御池川における在来イワナの生息の可能性

近畿大学農学部です。愛知川支流御池川における在来イワナの生息可能性についてお話しします。テーマは、『御池川に昔から住む在来イワナが現在も生息しているのか』というものです。

イワナの基礎知識

イワナはサケ目の魚で、川の上流域に生息する魚です。愛知川を含む滋賀県の東側には、ヤマトイワナと呼ばれる白点のない在来種が生息していると言われています。この地域特有のイワナが現在も生息しているかを調べるのが本研究の目的です。

研究内容と方法

今回の研究では、イワナの写真記録とDNA分析を活用して、御池川におけるイワナが在来種であるかどうかを調査しました。

展示案内

調査で使用したサンプルや道具を展示しています。調査内容や研究の詳細についてもお話しします。



10 東近江市森の文化博物館整備室

(仮称)東近江市森の文化博物館基本計画及びその取組について

東近江市森の文化博物館整備室です。愛知川源流を中心とした地域資源を活用した取組についてお話しします。

鈴鹿山脈と愛知川源流の価値

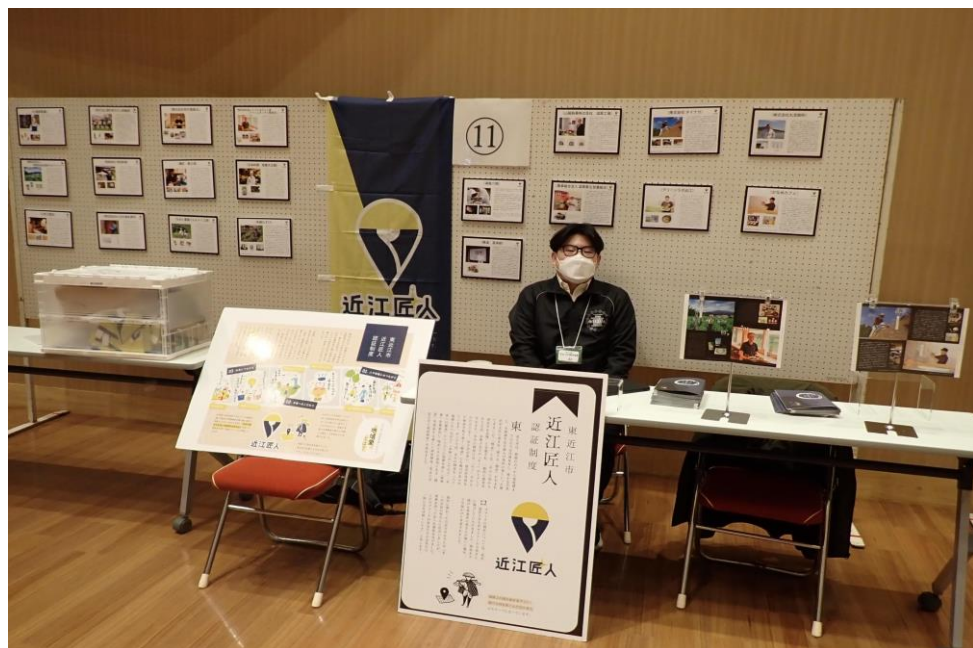
東近江市は、鈴鹿山脈から琵琶湖まで、多様な自然とそれによって育まれた歴史文化が豊富な地域です。特に、愛知川源流を『鈴鹿の森』と呼び、このエリアでは、クマタカを頂点とする生物多様性や、木地師文化、政所茶といった貴重な地域資源が多く残されています。

フィールド博物館の取組

私たちは、この地域資源一つ一つを展示物と捉えています。これらの資源を守り、活用し、地域の魅力を発信するために、地域全体を活用した『フィールド博物館』を展開しています。

今後の活動と呼びかけ

これからも様々な活動を行い、地域資源を守りつつ、活用の幅を広げていきます。皆様と意見を交換し、今後の連携の可能性を探りたいと思っています。



11 東近江市観光物産課

東近江市近江匠人認証制度について

東近江市観光物産課です。東近江市の近江匠人認証制度について御紹介します。

近江匠人認証制度の特徴

『近江匠人認証制度』は、皆さんが御存じの『近江商人』とは少し異なります。この制度は、近江商人の三方よしの精神をもとに、地域愛を数値化し、その物産と人にスポットライトを当てて評価する仕組みです。

環境への配慮と評価基準

認証制度の評価基準には、環境への配慮が大きな割合を占めています。この取組を通じて、地域資源の価値を高め、環境保全にも貢献することを目指しています。



12 クマタカ生態研究グループ

クマタカの生態調査から鈴鹿の森の生物多様性を評価

クマタカ生態研究グループです。

私たちの団体は、最初に御挨拶された山崎さんが約40年前に立ち上げ、科学的知見をもとに継続的な調査研究を行っています。

研究テーマと展示内容

今回は『クマタカは何を食べているか』をテーマに、室内カメラを活用した研究を展示しています。この調査で、クマタカが非常に多様な餌資源を利用していることが初めて分かりました。これは、鈴鹿山脈が生物多様性に富んだ森であることを裏付ける結果です。また、クマタカの生息地に関する研究内容も展示しています。



13 H.Bコミュニケーションズ 合同会社 かなめカフェ アイスクリームをメディアに！ 子どもが地域を自慢したくなる農産物の活用

かなめカフェでアイスクリームを作っています。

地域の魅力と活動の目的

ここにいらっしゃる皆さんは、きっと地域の魅力についてよく御存じだと思います。私たちが住むこの地域には、素晴らしい人々、農産物、農家さん、そして豊かな自然があります。私たちは、これらの魅力をもっと多くの人に知ってもらいたいという思いで活動しています。

将来、子どもたちが県外の人に『滋賀県のいい所は何ですか？』と聞かれたときに、胸を張って自慢できるような地域づくりを目指しています。

アイスクリームを通じた魅力発信

私たちは、アイスクリームを一つのメディアと考えています。そのアイスクリームを通じて、地域の魅力や価値を発信し、より多くの人にこの地域を好きになってもらえたらと思っています。



14 株式会社みんなの奥永源寺 絶滅危惧種の東近江市の花 「紫草(ムラサキ)」を用いた地域活性化

みんなの奥永源寺です。

東近江市の花であり絶滅危惧種のムラサキの活用、種の保存、そして地域活性化に15年間取り組んできました。

ムラサキ保全の取組と課題

ムラサキは、山崎先生のイヌワシやクマタカに並ぶ、絶滅危惧種IB類に指定されている希少種です。このムラサキを絶滅させず、地域活性化に活用しながら未来へつなげるために、活動を続けています。しかしながら、まだ認知度が十分ではなく、私の力不足を痛感しています。

誤解を超えて伝えたい思い

現在、『コスメを作っている人』という認識を持たれることが多いのですが、本来は環境活動家として、このムラサキの保全と活用に人生を捧げてきた人間です。その思いを皆さんに知っていただき、親睦を深めたいと考えています。



15 つどいの広場えがお

地域のつながりから広がるもの

蒲生から来ました、つどいの広場えがおです。

私たちは東近江市から委託を受け、子育て支援拠点事業を運営しています。この事業では、赤ちゃんからお年寄りまで、地域の誰もが気軽に集まり、ふらっとお茶を飲んだり、赤ちゃんの顔を見に来たりできる居場所を提供しています。

地域の課題と活動の意義

現在、子どもたちも大人も、人とつながる機会が非常に少なくなっています。地域の中で会話が減り、顔も知らないまま過ごす状況が増えています。しかし、もう一度人と人がつながる喜びを取り戻し、多世代が交流し合える地域にすることが重要だと考えています。

活動への想い

人とつながることには、しんどいこともあります。それ以上に多くの喜びがあります。私たちは、そんな喜びを地域の皆さんに伝えられる場所を目指し、活動を続けています。



16 株式会社IHI

「小さな自然再生」の取組による 自然と技術が調和する社会の創出

IHIです。以前は石川島播磨重工業という名前で知られていました。もともとは造船会社で、現在では発電プラント、航空機エンジンの開発、さらには民間初のロケット『カイロスロケット』の打ち上げなど、多岐にわたる事業を展開しています。ロケットの打ち上げはまだ成功していませんが、技術を通じて社会に貢献したいと考えています。

東近江市での取組

東近江市では、2022年から資源再生の取組を行っています。具体的には、愛知川中流域にある河辺いきものの森に隣接する農業水路で、魚が生育しやすい環境づくりを進めています。この活動を通じて、地域環境の改善に貢献したいと考えています。

地域との交流への期待

普段、私たちは東京や横浜を拠点にしているため、地域の皆さんと直接お話する機会が少ない状況です。本日は、様々な意見を交換し、地域の皆さんの声を直接聞けることを楽しみにしています。



17 フードバンク東近江(Mitte)

東近江からはじまる新しいフードバンクのカタチ

フードバンク東近江です。

フードバンクとは、企業や個人から寄附された食料品を、必要とする方に届ける活動です。私たちは、食品ロスを活用して地域で支援を行っています。

活動の立ち上げと経緯

私たちが立ち上がったのはコロナ禍のときでした。一斉休校により、学童の子どもたちの昼食をどうにか支援できないかと考えたことがきっかけです。食品ロスを活用し、学童支援を行ったのが始まりでした。その後、がもう夢工房や社協と協働し、ひとり親家庭への食品支援や、コロナ陽性患者への食料品寄附などの活動を展開してきました。

最近の課題と新たな取組

最近では、物価高騰の影響で、特に年金で生活している方々からの支援要請が増えていきます。食料品を渡すだけでは本質的な支援にならないと考え、東近江三方よし基金のサポートを得て、新たな支援の形を模索しています。現在、その拠点を中心に活動を広げています。

各ポスター間を巡る参加者

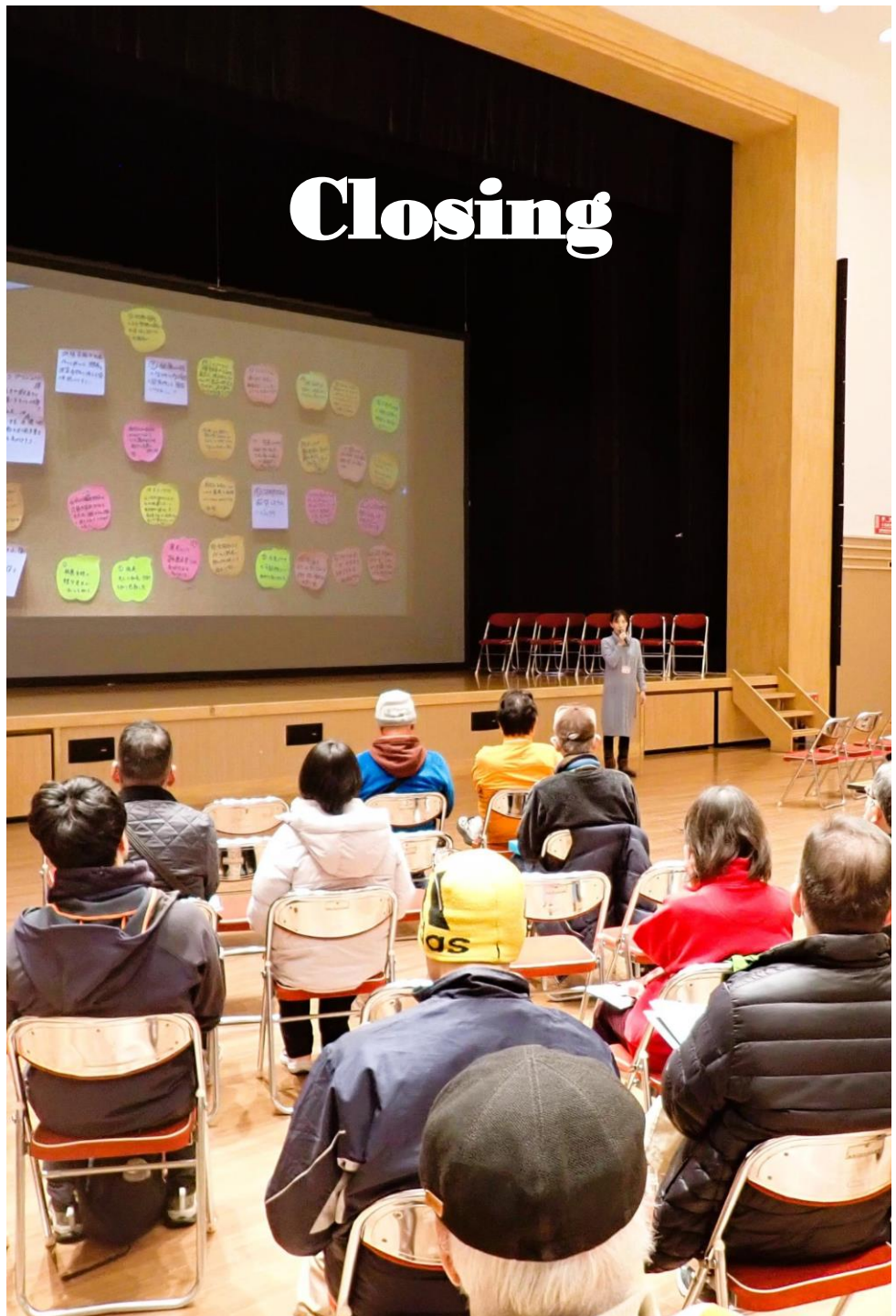


皆さん熱心に聞いておられます

発表者も他のブースを巡り交流を深める



Closing



参加者の御意見・感想の紹介

東近江市環境円卓会議運営委員会 委員 森下瑠美



皆さん、本日はお集まりいただきありがとうございます。私は環境円卓会議運営委員の森下です。本日は、様々な出展団体の活動を知り、多くの気づきや学びがあったと思います。私自身も、地元に住んでいて知らないことがたくさんあると改めて感じました。皆さんからも、『こんな面白い活動があるなんて知らなかった』という声を多くいただきました。

地域活動の意義

たとえば、フードバンクの活動については、『フードロスをなくす活動が自然環境保全につながる』といった視点に気付いたという声がありました。さらに、エコ倶楽部やつどいの広場えがお、ムラサキの保全活動など、地域に根ざした様々な取組が、持続可能な地域づくりの一環であると感じたという感想が多く寄せられました。

農業への関心と地域のつながり

また、農業に関する話題も多く出ました。現在、物価高騰の影響で野菜が高騰している状況に驚きながらも、地域で農業を支える重要性を再認識する機会になったという意見がありました。農家の方々が地域の農産物を守り、次世代につないでいくことの大切さが改めて共有されました。

学術的な視点と地域の魅力

本日は、学者や研究者の視点から地域の良さをすることもできました。イワナやカミキリムシといった在来種に関する話題や、生物多様性に関する内容は、地元に住んでいても知らなかったという声が多く聞かれました。このような知識を共有することで、地域の魅力を新たに発見する機会となったと感じています。

参加者の声と次への期待

全体を通して、皆さんから様々な活動を知ることができて良かったという声が多数寄せられました。本日得た知識や気づきを、友人や家族に伝え、次の人へとバトンを渡していくような広がりが生まれる場になればと思っています。

簡単ですが、以上で私からの総括とさせていただきます。本日は皆さんの声をお聞かせいただき、ありがとうございました。



- フードバンクさん:集められた物資を配布することが大変だというお話が印象的でした。
- 紫草(ムラサキ):初めて知りました。とても良い香りで、素敵な商品だと思います。
- 地域を巻き込んだスイーツ作りや「甘い東近江の思い出」が素敵でした。
- スタッフの思いが形になった素晴らしい取組だと感じました。
- 農業の担い手(第1次産業)の不足について、国の支援が必要だと改めて思いました。
- BDFを集める際の大きな壁が法律であることを知りました。
- 高齢者としてどうかと思いましたが、同年代の人が多く参加しており、さらに若い人たちのパワーに感心しました。皆で頑張りたいです。
- 紫草の栽培が環境保護を目的にしていることを知り、嬉しかったです。
- 若い人たちが農業に熱意を持っていることを知り、希望を感じました。
- 東近江を守るには、農業の維持が重要だと実感しました。
- 自然(森林)の大切さや保全の重要性に気づかされました。
- 猿尾について興味深い話が聞けました。和田門辺で作っていました。
- 市の古くからの文化を守りつつ、建物だけでなくフィールドでの活動を重視した計画が素晴らしいと思いました。
- 虫がつきにくく育てやすいカブを作っている話を聞いて良かったです。味も美味しかったです。
- 全国的にも珍しい制度で、他の地域にも広がってほしいと思いました。
- 環境のためにできることを少しでも取り組みたいと思いました。
- 子どもだけでなくお年寄りも集まり、居場所として素敵だと思います。

- 信州カブを初めて知りました。東近江の名産として推したいです。
- 他の団体の活動内容を知り、自分たちの活動に取り入れていきたいです。
- 若手農業者さんの大切さを知り、農業についてもっと学びたいです。
- イベントに気付くのが遅くなりましたが参加できて良かったです。広報が中学・高校にも届くと良いと思います。
- 森の文化博物館が素晴らしいと感じ、モデルケースになってほしいです。
- 様々な活動に取り組む方々の話を聞いて良かったです。今後の活動に活かしたいです。
- NPO愛のまちの若い方々が環境保護のために頑張る姿に感動しました。
- クマタカの環境保護活動を応援しています。
- フードバンクの活動が素晴らしく、個人でも協力したいと思いました。
- 地形や植生による生物の進化のストーリーが興味深かったです。
- フードバンクの取組が食品ロス削減につながっていることを知り、自分でも参加したいと思いました。
- 京大大学院の研究で、生物の多様性や固有性が地形により変化することを学びました。
- 来場者の皆さんの地域愛を感じました。
- 継続的な支援と仕組みが整うことを願っています。
- たのしかったです！
- 食品ロス問題に取り組む活動が、社会復帰の手助けにもつながっていることを知り、感動しました。
- 鈴鹿亜種の貴重な昆虫について知ることができました。
- 猿尾について、先人の知恵や技術に感動しました。
- 在来イワナの可能性を知り、興味が湧きました。
- 花崗岩地域の植生回復の特徴について勉強になりました。
- 「えがおさん がんばってネ」私も子どもたちの笑顔を作るために頑張ります！
- 企業の地域活動参加を応援しています。IHIさん、これからも頑張ってください！
- 多くの研究者の調査フィールドになっていることを初めて知りました。

など

振り返り

東近江市環境円卓会議運営委員会 副委員長 山口美知子
委員 藤井絢子



1. 開始のあいさつ(山口)

本日は環境円卓会議に御参加いただき、ありがとうございます。私は運営委員の山口です。藤井さんとともに進行を務めます。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 会議テーマと活動の振り返り(藤井)

会議テーマの選定

今回の会議では、地域に魅力を感じて活動している若い人たちに焦点を当てました。普段、地元の人が知らないような取組を共有しようと考えました。本日は素晴らしい集まりになったと思います。

若い世代の参加

本日、中学生も参加してくれました。制服で堂々と参加してくれた姿に、感動しました。また、『とても面白かった』という声や『会議に参加して良かった』という意見を聞けました。

3. 地域活動の多様性と次世代への期待(山口)

新たな気づき

本日、様々な活動の中で、運営委員の私たちも初めて聞く内容が多くありました。特に若い世代がこうした濃密な活動に触れたことが、彼らの将来にどう影響するのか楽しみです。

環境円卓会議と環境基本計画の連携

この会議は、東近江市の環境基本計画に位置付けられている活動の一環です。現在、計画の改定時期を迎えており、皆さんの声を取り入れて次世代に向けた計画をつくることが重要だと感じています。

4. 地域資源と経済・社会のつながり(藤井)

環境・経済・社会の三位一体

東近江市の環境計画は、環境・経済・社会をうまく絡み合わせることを目指しています。本日の活動を通じて、新たななりわいの可能性が見えました。若い世代が経済を考慮しながら地域に貢献する姿勢を感じました。

行政と市民の連携

行政の方も多く参加していただき、新しい視点や発見があったのではないのでしょうか。この場をいかして、次世代に伝える仕組みをさらに充実させたいと思います。

5. 会議の成果と今後の展望(丸橋)

会議の成果

本日は、参加者とパネリスト、ブースの間で多くの交流が生まれました。短い時間ながらも新しいつながりができたことは大きな成果です。

地域資源と文化のつながり

イワナやカミキリムシの話、オサムシの分布と人間文化の関連性など、多様な視点が共有されました。これらの知見が地域の自然や文化を守る活動につながることを期待します。



6. 総括と次への期待

次世代へのバトン(山口)

本日得られた知識や気づきを、次の世代にどのように伝えるかが重要です。これからの環境計画では、次世代への関わり方を大きなテーマとしていきたいと思っています。

今後の開催に向けて(藤井)

本日のような場を、市役所のロビーなどで開催するなど、さらに広げていきたいと思っています。若い世代の声をもっと聞く工夫を取り入れることで、市民の意見をより反映した環境計画をつくるべきです。

7. 締めめのあいさつ(山口・藤井)

本日は、本当に素晴らしい場となりました。御参加いただきありがとうございました。引き続き、皆さんとともに地域の未来を考えていきたいと思っています。



環境円卓会議「東近江市環境オープンキャンパス」
～森里川湖の地域資源を未来につなぐわたしたちの活動～

2025(令和7)年1月 18 日(土)開催

場所 能登川コミュニティセンター

主催 東近江市環境円卓会議運営委員会、東近江市

発行・問合せ

東近江市環境部森と水政策課

〒527-8527 滋賀県東近江市八日市緑町10番5号

電 話 0748-24-5524

メール morimizu@city.higashiomi.lg.jp